

農作物病害虫発生現況情報（8月）りんご編

1 斑点落葉病

(1) 8月後半の巡回調査では、発生園地率は80.6%（平年67.4%）で平年より高かった。また、発生程度中以上の園地率は35.5%（平年17.4%）で平年より高かった（図1）。

2 褐斑病

(1) 8月後半の巡回調査では、発生園地率は51.6%（平年14.8%）で平年より高かった。また、発生程度中以上の園地率は22.6%（平年5.5%）で平年より高かった（図2）。

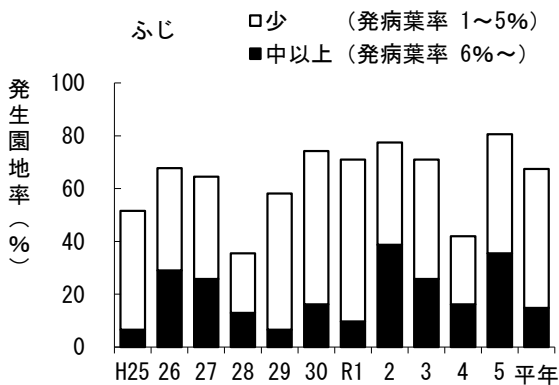


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (ふじ、8月後半、徒長枝上位10葉)

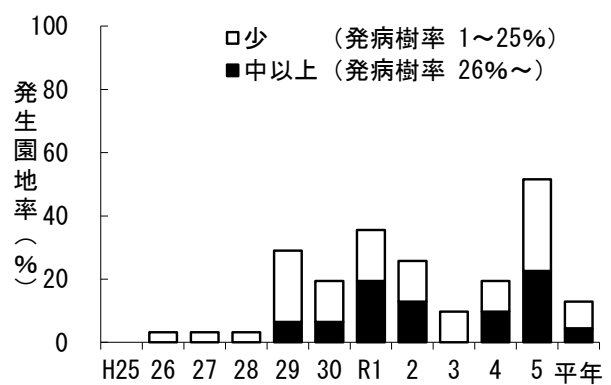


図2 褐斑病の発生園地率の年次推移 (8月後半)

3 黒星病

(1) 8月後半の巡回調査は、発生園地率は25.8%（平年11.0%）で平年より高かった。また、発生程度中以上の園地率は9.7%（平年2.9%）で平年より高かった（図3）。

(2) 地域別の発生園地率は、県中部は46.7%（平年13.3%）で平年より高く、県北部は20.0%（平年24.0%）で平年並だった（図4）。

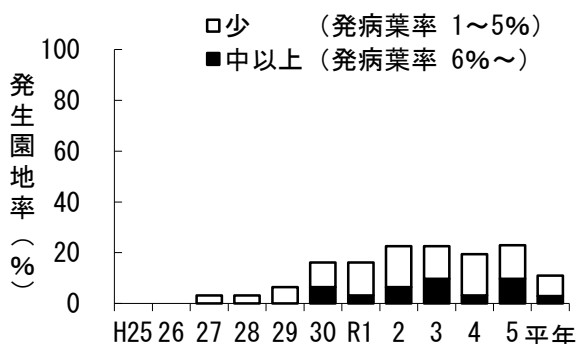


図3 黒星病の発生園地率の年次推移 (8月後半、徒長枝葉)

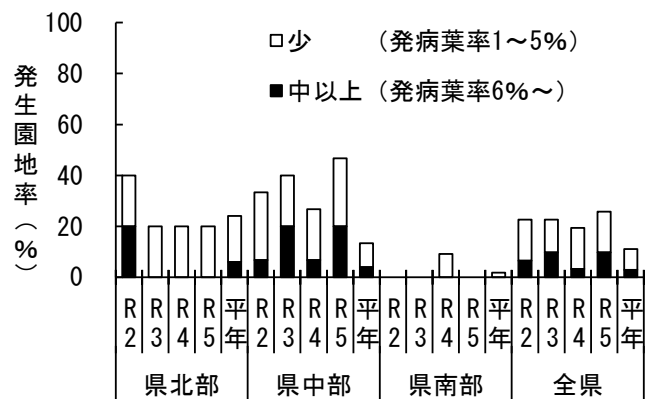


図4 黒星病の地域別発生園地率 (8月後半、徒長枝葉)

4 リンゴハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は29.0%（平年26.5%）で、平年並だった（図5）。
- (2) 地域別では、県北部及び県中部で発生園地率は平年より低く、県南部では高かった（図6）。

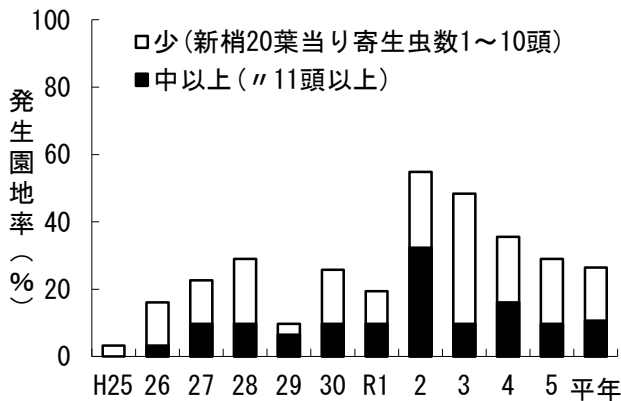


図5 リンゴハダニの発生園地率の年次推移
(8月後半、目通り)

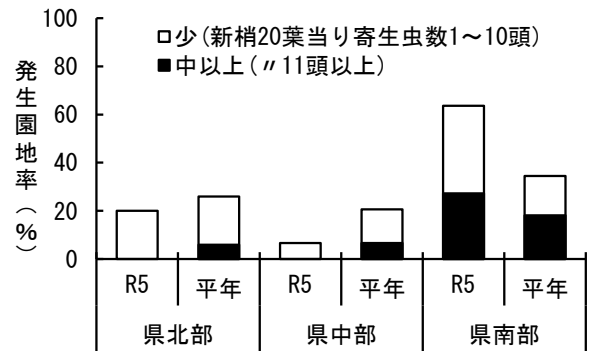


図6 リンゴハダニの地域別発生園地率
(8月後半、目通り)

5 ナミハダニ

- (1) 8月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は29.0%（平年52.6%）で、平年より低かった（図7）。
- (2) 地域別では、県北部及び県中部で発生園地率は平年より低く、県南部では平年並だった（図8）。

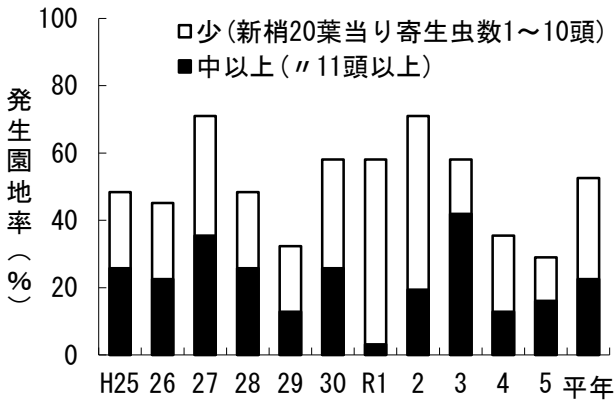


図7 ナミハダニの発生園地率の年次推移
(8月後半、目通り)

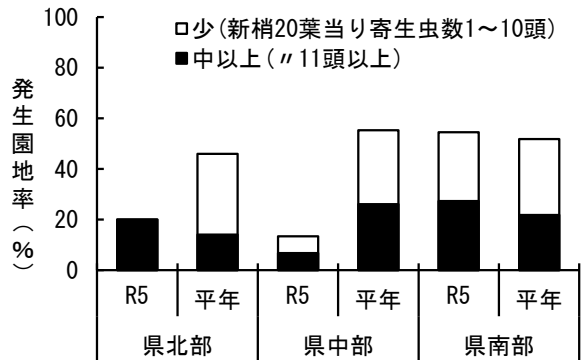


図8 ナミハダニの地域別発生状況
(8月後半、目通り)

6 ハマキムシ類

- (1) 8月前半の巡回調査での被害徒長枝率は、3.2%（平年0.6%）であった（図9）。

7 キンモンホソガ

- (1) 8月後半の巡回調査での第3世代の発生園地率は45.2%（平年7.4%）で、平年より高かった（図10）。
- (2) 地域別では、いずれの地域も発生程度中以上の園地が見られた（図11）。

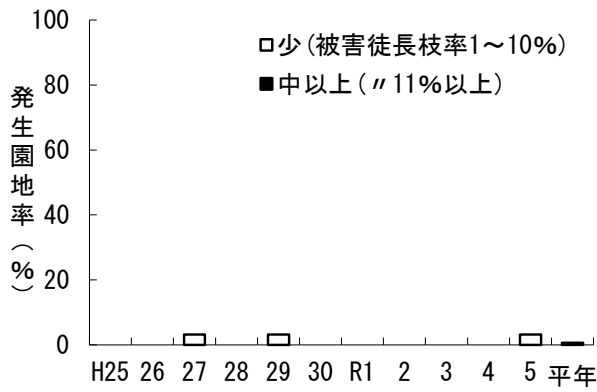


図9 ハマキムシ類の発生園地率の年次推移 (8月前半)

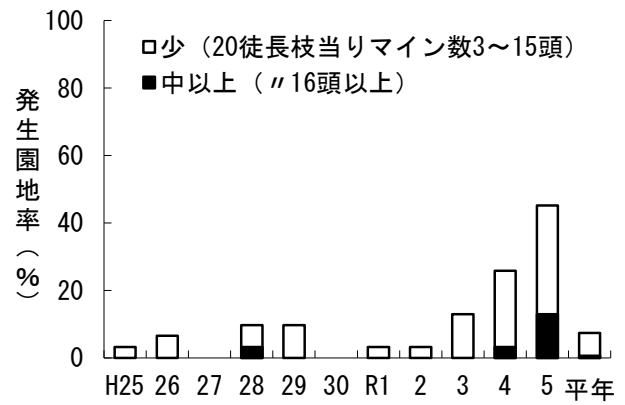


図10 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (8月後半)

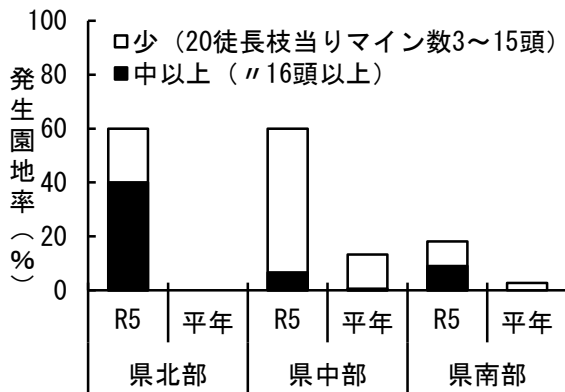


図11 キンモンホソガの地域別発生状況 (8月後半、目通り)

8 果樹カメムシ類

- (1) 8月後半の巡回調査での被害果発生園地率は41.9% (平年24.8%)で、平年よりやや高かった。また、発生程度が中以上は9.7% (平年1.0%)で、平年より高かった (図12)。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、8月前半から平年より高くなり、8月後半では、発生程度が中以上の園地が増加した (図13)。
- (3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場 (北上市成田：無防除) では、8月以降、平年並に推移した。現地園地 (盛岡市川目) の誘殺数は、7月第3半句以降、平年より高く推移した (図14)。
- (4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は平年より少なく推移した (図15)。

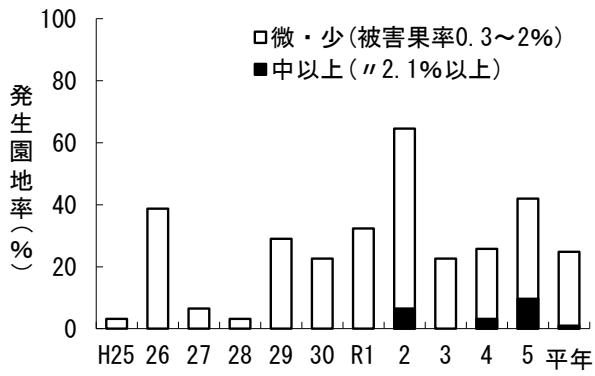


図12 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移（8月後半）

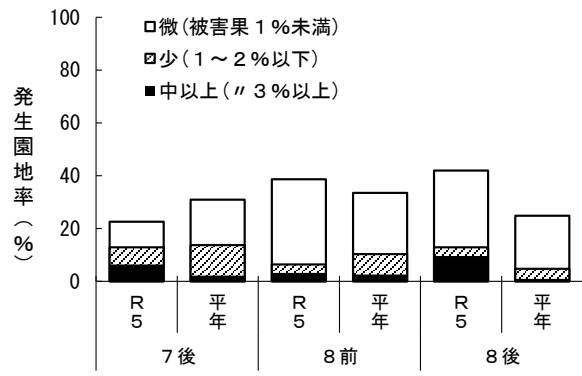


図13 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率（8月後半）

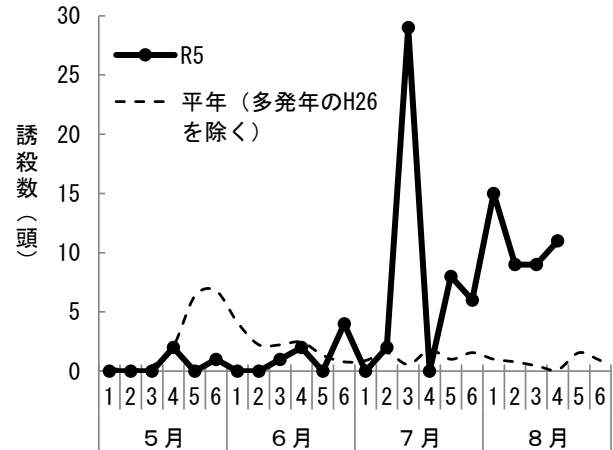
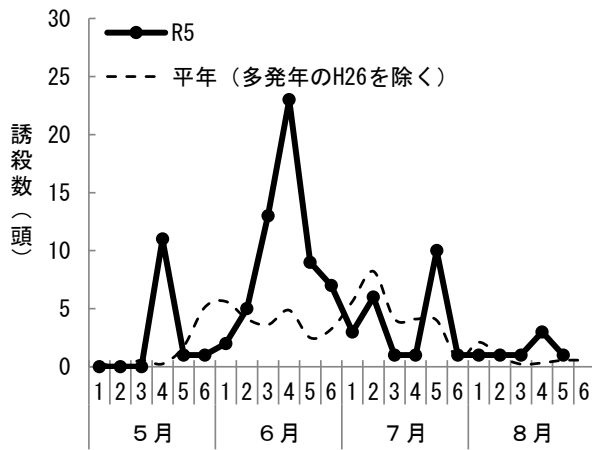


図14 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（左：基準圃場（北上市成田）、右：盛岡市川目）

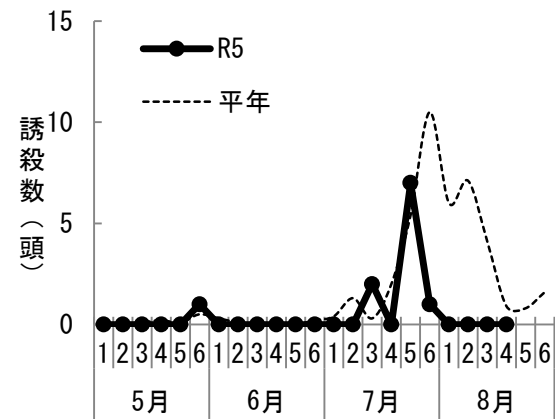
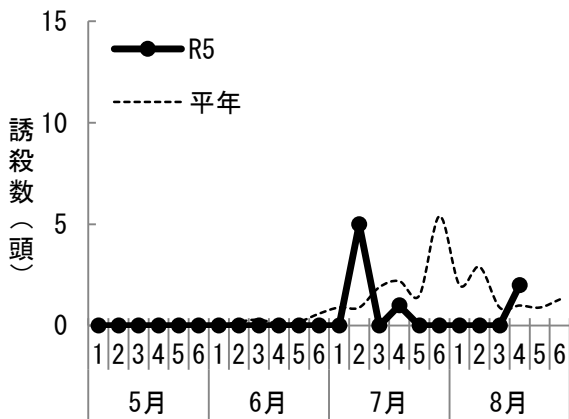


図15 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況（左：北上市成田、右：盛岡市川目）